



阪神瓦版

兵庫県隊友会
阪神支部
令和7年8月号

令和7年度 阪神支部座談会「語り継がれる防人の体験談」



兵庫県隊友会阪神支部（支部長 山本健治）は、令和七年八月二十三日（土）西宮市市民交流センターに於いて令和七年度阪神支部座談会を実施しました。

今回は、「戦闘機乗りの慰霊の旅」と題し

て兵庫県隊友会副会長兼阪神支部顧問の石飛宗一氏が語り手となって約二時間に亘り実施しました。

石飛氏の「空の鎮魂の旅」は平成二十五年に、終戦時米爆撃機B29に飛燕で体当たりした緒方中佐と共に神戸の再度山（ふたたびさん）に墜落した米搭乗員の御霊を近畿偕行会や自衛隊修親会と合同供養したことから始まり、終戦時に日本の空に散った全国の戦没者慰霊碑を供養行脚してきたという事でした。また後半は現在の国際情勢にも触れ、中国の台頭に危機感を抱く胸中を熱くお話し頂きました。参加者は阪神支部会員のほか、兵庫県隊友会小川会長をはじめ本部役員のご参加も頂き、参加者全員が終始熱心に話に聞き入っていました。

阪神支部としては、今後も戦争体験談や自衛隊勤務を通して我が国の防衛に半生を懸けて来られた貴重な体験談を座談会の場を通じて語り継いで行きたいとしています。

